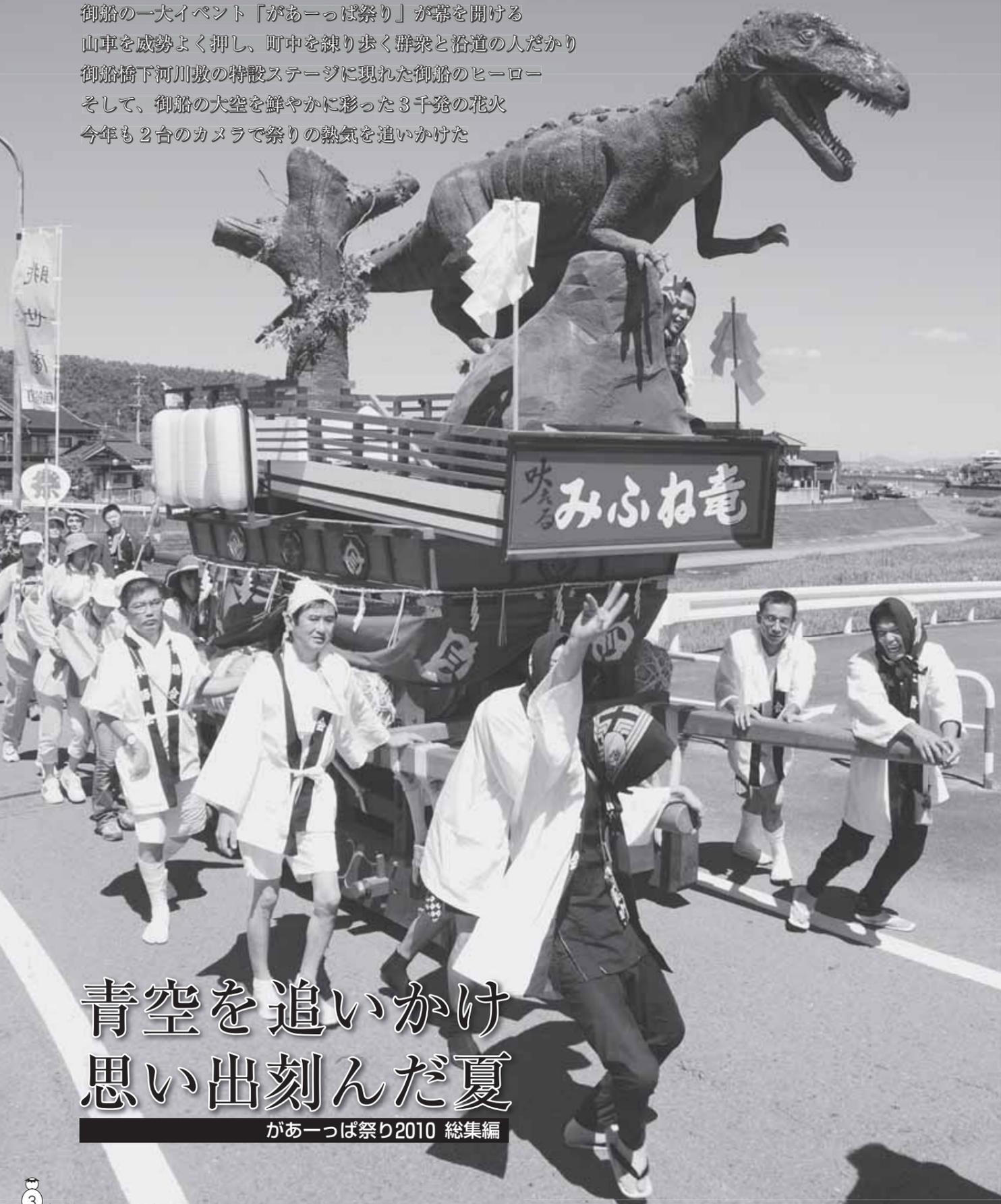


8月8日、御船上空に広がった青空
 年に一度、心躍る夏の日がやってきた
 御船の一大イベント「があーっぱ祭り」が幕を開ける
 山車を威勢よく押し、町中を練り歩く群衆と浴道の人だかり
 御船橋下河川敷の特設ステージに現れた御船のヒーロー
 そして、御船の上空を鮮やかに彩った3千発の花火
 今年も2台のカメラで祭りの熱気を追いかけた



青空を追いかけて 思い出刻んだ夏

があーっぱ祭り2010 総集編

九州のあーっぱ 御船に勢揃い

第16回九州あーっぱサミット in みふね



九州あーっぱサミット in みふねが8月7日、カルチャーセンターで開催されました。あーっぱに由縁のある地域との情報交換や交流を目的に開かれ、今年で16回目。今年も九州外から、台湾台北や岩手県、埼玉県など、28団体が本町に集いました。

パネルディスカッションに登場。本町代表は、沖田昌史さん（御船）が務めて、「があーっぱ祭り」は、戦前あるお寺の盆踊りからはじまった。終戦後、みんなで夏祭りをしようという御船夏祭りができた。夏祭りを町中に広げるために名前を公募して一番多かったのが、「があーっぱ祭り」と祭りのルーツを説明しました。

1 パネルディスカッションでは各地域のあーっぱにまつわる話や取り組みがあますことなく発表された。2 今年はサミット開催に合わせて、があーっぱ祭りの祈願祭が行われ、2日間の安全を祈った。3 にわか・オペラ劇「鬼七の豊作万作」。富合にわかユーモラスな劇を演じて会場の笑いを誘った。4 御船があーっぱ宣言を堂々と発表した。みふねがあーっぱ族女王の門岡久子さん（御船）

御船の昔話 「があーっぱ」船太郎

昔々、辺田見村の若宮さんのお宮そばに、若宮淵という広い淵がありました。10数メートルあるうかとう深みには、大きな岩が川底に重なり合い、昼でも暗く青くよんでいました。

この淵の底には、一匹の「があーっぱ」がすみついていました。その「があーっぱ」の名は、船太郎。夏場の暖かいころは川底にすみ、水が冷たくなると岸辺に上がり「ヤマウロ」となって、玉虫村の山中にある洞にもぐりこみ、のどかに暮らしていました。

ところがある年から御船川の度重なる氾らんで、若宮淵も土砂に埋もれて浅くなってしまいました。すみ家を失った船太郎は大変困っていました。しかしそのころ、眼鏡橋の下流に新しい糸糸淵ができました。さっそくそこへ移りすむことにしました。

この淵は、深く、静かで、すみ心地も良く、船太郎はとても気に入りました。しかし、遊び気盛んな船太郎は、だんだん退屈していったのです。そこで船太郎は、気晴らし

に商家の船着場へ行って、積み荷を食い散らかして悪さの限りを尽くしました。

商家の主人や船頭たちは大変困り果て、小坂村の八頭大龍王さんに相談をしました。すると「船太郎が悪さをするのは遊び仲間に入れてやらないから」というお告げがあったそうです。

お告げを聞いた商家の主人や町役人たちは話し合い、8月の「お地藏さん祭り」のころに船太郎を祭り客として迎え、夏祭りを催すことにしました。祭りに加わった船太郎は、頭ふりふりとひと晩中、御船の子どもたちと踊りました。

それから不思議なことに船太郎の悪さもなくなり、御船の商売もたいへん繁盛したそうです。（部抜粋）

作 郷土史家
故 丹生 静男氏

